

No.	質問	回答	質問ツール
1	一つのシステムで冊子・電子の目録、リポジトリ、デジタルアーカイブ、研究データなどを管理できるような、管理の集約化についてご意見をお聞かせください。	もちろん一つのシステムで複数のデータベースを持ち、処理することは効率的ですが、複数のシステムに分散したデータベースをAPIなどの一つのインタフェースで連携させるやりかたも考えられます。これからのシステムがどうあるべきかという点については、NIIの中央システムともリンクして、コミュニティのみなさんと一緒に議論を進めていきたいと思えます。	slido
2	システム的な事を含め、外部へ依頼できることは外部へ任せたいです。	同様の意見をお持ちの方も少なくないと思えます。あらたなサービスの開発にあたって、システムや制度の導入、更新によって解決できる課題はそうしていきたいですし、それを実現できる環境をみなさんと一緒に検討し、実現できたらと思えます。	slido
3	これから委員会が目指す「高度化・最大化」というのは具体的にどのようなイメージなのでしょう。国際化の対応を指しているのでしょうか。	研究者や学生などの利用者はもちろん、学術情報システムの利用者である大学図書館（員）が本システムの利用によって受けられる恩恵を最大化、高度化できるようにすることを意図してこの図を描きました。その結果が国際化の対応にもつながります。	slido
4	共同調達がローカルシステムを指す場合は、発注・受入等の業務フローなどもある程度すり合わせが必要であり、コミュニティの前に仲間を探す、という作業が必要になるのかなと思えました。	共同調達にあたって、コミュニティ以前に仲間を探す必要があるというのはご指摘のとおりと思えます。逆に、コミュニティがあるからこそ共同調達の仲間を探しやすいという環境も準備できるのではないかと考えています。また、コミュニティがあることで、ベンダも提案の場として活用してもらえるのではないかと考えています。	slido
5	「共同調達を前提とした中央システムの構築」や、「それを運営する共同体（コミュニティ）の設置」という点も含めて今後各大学や、団体に意見募集などがあるのでしょうか？	はい、いずれもみなさんの関与なくしては実現できないため、アンケートや意見募集などの実施を検討したいと思います。なお、本フォーラムでもお話ししましたが、中央システムを運用するためには図書館が主体となることが必須であること、そうしなければシステムそのものの存続も困難になるかもしれないことをご理解いただき、積極的な参加を期待します。	slido
6	途中で共同体から離脱することも可能なのでしょうか？もし可能の場合、離脱後の懸念事項はありますか？	共同体への参加、脱退はもちろん任意です。例えばNACSIS-CAT/ILLを使わないので共同体には加わらないという選択肢もあり得ます。	slido
7	図書館サービスの運用規模が異なる参加機関の集まりにおいて決定した方向性についていけない機関が出てきた場合の、フォロー体制などについて、お考えをお聞かせください。	そのようなことがないように、各参加館が意見を述べ、主体的に意思決定できる共同体（コミュニティ）が必要と考えています。意思決定の必要な事柄は、全体に及ぶ案件から一部に及ぶ案件まで様々であると思えます。全体に及ぶ案件であっても、協議によって例外規定を設けるなど（例：海外機関は除く）の措置をとることができると思えます。	slido
8	電子ジャーナル、機関リポジトリをはじめ、細かなコミュニティが増加しており、小さな大学は参加そのものが負担にも感じています。コミュニティの統合などの予定はないのでしょうか。	「既存のコミュニティ（JUSTICE、JPCOAR）」はその目的のために設立・運営されている背景があるので、すぐに統合は考えられませんが、まず本委員会が目的を明確化していずれは連携していくことが考えられると思えます。	slido
9	事務局員も含めて、コミュニティの仕組みを支える人員の確保についてどのようにお考えでしょうか。	参加機関の希望があればJUSTICE、JPCOARのような体制も考えられますが、現時点ではいかにして最小限のコスト・労力で実現するかを目指すことが必要と思えます。一方で、コミュニティを支える活動が人材育成の場となるのであれば、その方向で実現していくことも考えられます。	slido
10	参加費について、現行の図書館システムの予算の枠内に収められないと参加は厳しいように思います。また費用を各大学が調達費用に含めるとした場合、それはベンダ側に負担を強いることになりそうですがどのようにお考えでしょうか？	多様な図書館が参加することが想定されるため、参加費は一律のものではなく、複数の組み合わせが考えられます。たとえば、中央システムのうち、いずれの図書館も共有して利用する部分の運用コストを基本費用とすることが考えられます。今後追加されるであろう特定の機能を使う費用は、それを利用する図書館が別途支払うといった方式も考慮されます。システム経費をどのように抑えるかは各図書館で工夫が必要ですが、その対応方策の一つとして、共同調達も考えられます。	slido

No.	質問	回答	質問ツール
11	「共同運用」の意識を保つために、今後はどのようなことを想定すべきか、お聞きしたいです。	学術情報システムは共有財産であること、したがってこれを共同して運用しようという意識を持つこと、そのために人員や財政上の問題を相談し、共有化する場、すなわちコミュニティを作ることが重要であると考えます。 ローカルシステムの共同調達・運用は、今後の具体的な可能性の一つとして取り上げましたが、各図書館が抱える課題とその解決策はこれに限りません。各図書館が身近な課題に引き付けてその解決に向けて一緒に取り組むことで、参加意識が高まることが想定されます。こうした活動を通じて、利用者のためにどのようなサービスを提供すればよいか、そのために書誌ユーティリティ/学術情報基盤はどうあるべきかを一人ひとりが考え始め、コミュニティ意識がさらに広がることを期待しています。	slido
12	電子資料の書誌データについて、出版社からの情報が十分でなかったり、NCの書誌と異なるという問題がありますが、今後どのように対応されますか。	現在、電子資料の書誌データは、質・量ともに充実した環境とは言いがたいと認識しております。ただし図書館業務の省力化、軽量化という点を念頭に置きますと、先に量の充実を図ることが優先であると考えます。もちろん、ご指摘の通り、電子資料の管理における書誌データの質についてはさまざまな問題が指摘されておりますので、とくに日本語の書誌データについては提供元となる流通側のステークホルダーなどと協力しつつ並行して改善していければと考えております。	slido
13	e-ISSNが万能でなく、今後、NACSISに電子書籍が扱えるようになって登録する際に、スムーズに登録できるのか不安です。	ご指摘の通りかと存じます。とくに日本の電子資料の書誌データについては、こういった対応が懸念なく行えるように、ステークホルダーと協力関係を構築し、ナレッジベースの充実を図りたいと考えております。	slido
14	Alma等海外製品の導入にあたり、発想の転換が必要ということですが、よろしければ一例を教えてください。	例えば日本の図書館システムでは、学生の学年などが一般的に登録されていますが、こういった値を登録するフィールドがありません。学年というものを管理する必要が本当にあるのかを考える機会となりました。またAlmaのワークフローの中には、これまで親んできた検収という考え方を余地がありませんでした。このあたりもその必要性を改めて考えるきっかけとなりました。	slido
15	Alma等と比較して、日本のシステムベンダーでは対応が難しいのはどの点でしょうか。	日本の図書館システムは総じて機能的にとても優秀であると考えております。ただ対応が難しい部分があるとすれば、世界各国の電子リソースの情報を対象としたナレッジベースの構築と管理でないかと思えます。ヨーロッパやアメリカをはじめ、多くの海外出版者のデータを収集することが必要とされるナレッジベースは、電子リソースの管理に不可欠ですが、これらを安定的に構築していくことが、日本のベンダーにとって困難を生じさせる部分なのだと思います。一方で、ご指摘にあるように、日本国内のデータベースについて、独自項目のインデキシングやナレッジベースの構築にあたるということは十分に可能なのではないかと考えます。国内のベンダーの方にはぜひ取り組んでいただきたいと個人的には思います。	slido
16	2022年度に学術情報システムの在り方が移行するにあたり、大学図書館は現行の図書館システムの改修費用等を準備する必要があるでしょうか。	中央システムは現行のNACSIS-CATやILLの利用を前提に検討を進めているため、紙媒体について現行通りの機能のみを考えれば、改修費用は不要と考えます。ただ、電子資料への対応等、各機関が選択的に導入する機能については、各機関の費用負担等について検討が必要であると考えています。	slido
17	NIIの独自の現在の仕組みを CAT-P、ILLなどを含め国際標準化するという方向性はありますか？	国際標準化を最終的なゴールにしたいと考えます。すべての参加館が無理のないようCATP対応を継続しつつ、いずれは国際標準形式も利用できるよう、検討を進めていきます。	slido

No.	質問	回答	質問ツール
18	共同調達となるLSPの開発スケジュールはどうなっていますか？また、NIIがローカルシステムそのものを提供する可能性はありますか。	LSPの開発スケジュールを含め、共同調達は本委員会ですら実施を予定している参加館向けアンケート調査等を踏まえ、検討してまいります。 仮にNIIがLSP提供ベンダーから中央システムを調達する場合でも、そこにローカルシステムを入れるかなど、どのような仕様で調達するかは、本委員会から一律に提案できることではないと認識しています。中央システムにローカルシステムを含めるのであれば、それはNIIがローカルシステムを提供するというよりも、NIIも含めて希望する図書館と共に共同調達グループを形成していくといった方法になるかと思えます。	slido
19	次期中央システムでは電子コンテンツのILL提供も検討していますか。	電子コンテンツのILL提供も検討の範囲としています。	slido
20	佛教大学様で話のあったOracleBIを用いた利用統計・帳票は次期CATで利用できるのでしょうか。	OracleBIを用いた機能は、Almaという製品の一機能です。	slido
21	Alma導入を検討された際に、Alma以外に検討対象となった海外のシステムはありますか。また、最終的にAlmaを選択された決め手はどのようなものだったのでしょうか。	FOLIO、Worldshareについては情報を収集しておりました。他の海外の競合製品ではなく、Almaにした理由ですが、それまでもEx Libris製のシステムを数多く利用しており、データの引き継ぎが容易であるという部分や、各国での利用実績、費用の妥当性、そして厚い世界的なコミュニティが存在すること等が望ましいと考えた結果です。 多額の費用が費やされているようになった電子の資料について、ライセンスと「所蔵」（アクセス）管理をしっかりと行うことを模索していたことがあります。電子リソースを合理的に管理できること、世界的な図書館コミュニティを有することなどが決め手となりました。	slido
22	外資は利益が伴わないと事業を短期間の内に整理する印象があるのですが、その心配は無かったのでしょうか。契約で担保したのでしょうか。	Almaについては、提供元のExLibrisの実績と親会社（ProQuest）を含めた資本力・社会的評価を加味したうえで、問題ないとの判断を行いました。一方でデータ等の所有権など、本学の資産等に係る部分についてはFRPを通じて担保しています。	slido
23	「共同調達システム」としてAlmaを採用する可能性について飯野様ご自身はどう思われますか？	個人的な感想を言えば、「共同調達システム」の選定対象として十分な可能性があると感じております。	slido
24	北海道大学附属図書館の相原様にご説明されていた運用モデル関連の内容となるのですが、3点確認・質問事項があります。 1点目は検討されているコミュニティづくりについてですが、国際標準化などの新しい環境への適用のために、知識や技術等を備えている館が持ち合わせていない館へ継承し、人材を育成することで、各館が少しずつベースアップしていくことを目的に形成することを考えられていると認識で正しいでしょうか。 齟齬や不足があれば指摘または補足していただけますと幸いです。 2点目は、コミュニティのイメージとして「ガチガチな組織を構築するのではなく、上下関係のないフラットな状態で話し合う場」というお話が挙げられていた件での疑問点です。 これは、現在の問題点を受け、参加館に継続的に当事者意識を持つためのものだとして受け止めています。 しかし、最終的には知識や情報、技術を多く持ち合わせている館または有識者が問題提起や情報提供などある一定のリーダーシップをとる形で形成されていくことになるのではないのでしょうか。その場合、新たなコミュニティの形成は牽引することになる方々の負担にはなりませんか。 今あるコミュニティを改善・改変または深化するのではなく、新規のコミュニティとして形成することを選択された理由や必然性がどのようなものかわかりかねています。どのように意味合いが異なり、新規に形成するとどう違うのでしょうか。 3点目は、「共同調達」について、説明を伺ってもあまり具体的なイメージが掴めなかったため、教えていただきたいのですが、共同調達するモノは紙・電子・アーカイブなどの目録データ類やそれらを使用できるシステムということなののでしょうか。 それとも紙・電子・アーカイブなどそのもの、もしくはその全てなののでしょうか。 また、共同調達したものは共同体内でのみ共有する、というイメージなののでしょうか。 共同運用するコミュニティに所属しないと、中央システムの利用において何か制限がかかるのでしょうか。	ご質問ありがとうございます。 1点目については、ほぼ同じ認識ですが、必ずしも「館」から「館」という伝わり方ではないかとも思います。 2点目については、組織の在り方は複数ありそれぞれメリットデメリットがあります。そのバランスを見てコミュニティが選択しました変遷していくことになると思われるので、私が挙げたイメージも続かない可能性はあります。知識や情報、技術は実際特定の館に偏っているのか、牽引することは「負担」なのか、別の在り方は探れないのか、等を考えるとコミュニティならではの解決方法を見いだせるのではないかと期待があります。目録所在情報サービス参加館のグループと将来像を検討しているこれから委員会をコミュニティのベースと考えています。現在は目録の研修や知識共有などのコミュニティがありますが、各館が個別に努力するよりも共同体を形成して対応する方が、声も大きく労力も少なく抑えられるという考え方に立ち、共通の課題である図書館システムについても連携できるコミュニティを目指しています。 3点目は、ローカルシステムの共同調達に関しては、対象は紙・電子・アーカイブなどの目録データ類やそれらを使用できるシステムについて検討しています。共同調達の具体的な内容については、本委員会ですら実施を予定している参加館向けアンケート調査等を踏まえ、検討してまいります。一定の契約の下での共同調達グループでのみの利用となるはずで、共同調達されたシステムで作成されたデータのうち、共有すべきものについては、日本国内や国際的に活用できるよう、検討してまいります。	チャット